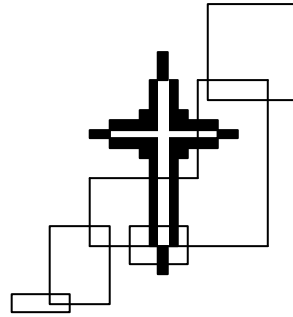


日本のための とりなし

わが国のために祈りましょう
ニュースレター 12月号
2005年12月5日発行



日本のためのとりなしの会
事務局：〒228-0802
相模原市上鶴間 6-1-17 皆川方
TEL042-747-5703
FAX042-746-2119
http://www.Christ-ch.or.jp/
*振替：00270-7-6421

委員長：皆川 尚一(神奈川県)
委員：友納 徳治(福岡県)
釘宮 義人(大分県)
高田和彦(東京都)
町田 誠(千葉県)
中原 耕平(千葉県)

松山高吉著「神道起源」(第2回)

現代文訳：皆川尚一

固有宗教の本体及び信仰

名はなくてもこの力があり、言葉がなくてもこの勢いがある固有宗教の本体とは、そもそもどんなものでしょうか。古来わが国の学者はこれを見たいと思っても見る事が出来ず、本居・平田も今一步という所まで来たのにその真の姿をうかがい知ることが出来ませんでした。しかし、千数百年の間、迷霧のために

形態を隠し古史の中に^{ヒソ}潜み隠れていた固有宗

教の本体を、わたしは今こそ世に^{アラフ}顕したいと思えます。先ず、その崇拜する神から始めましょう。

一、上古の日本国民は天地の主宰者たる造化の神を信奉しました。

古事記の初めに記しています、「高^{タカマノハラ}天原に成

りませる神の御名は天^{アメノミナカヌシノカミ}御中主^{タカミ}神、次に高御

産^{ムスビノカミ}巢日^{カミムスビノカミ}神、次に神産巢日^{ムスビ}神云々」。高天原とは天を言い、天御中主とは天に在して宇宙を主宰したもうの意。産巢日の上にある「高」

と「神」とは尊称であって「^{ムスビ}産巢日」は「万物を創造する」という意味です。この三神はその功德を分けて称えたものですからその本体は一神です。それ故古事記の序には、「參神作造化之首」と言って、三神を同じ造化の主としています。

二、造化の神を目に見えない者としたのは、いわゆる^{カクリミ}霊体としたのです。古事記に右の三神のことを言った後につけ加えて、「この三柱の神は^{カクリミ}隠身にましましき」

とあります。「^{カクリミ}隠身」とは、その体が隠れて人目に触れることがないのを示したもので、^{カクリミ}霊体をさしています。

三、神に敬虔な態度で仕え、悦んで神の命令に服従します。

罪と穢れとは神に嫌われるものとして、常に

^{ミソギハラヒ}禊^{フトマニ}禊^{フトマニ}を行ひ、太占によって神慮を判断し

ました。(禊は河海等に入って身の汚れを洗

浄する式。^{ハラヒ}禊は罪咎をはらい清める礼。^{フトマニ}太占

とは鹿の肩骨を八八カの木で灼いてそのひび割れの仕方^{ハラヒ}で神慮を判断する方法)天神(造化の神を言う。後代に至って造化の神ではないものをも言うようになった)の命に従って

イザナギイザナミ ムスビノカミ
伊弉諾伊弉冉の二尊は日本を創開し、産霊神

の勅令を受けて天孫瓊瓊杵尊ニギノミコトは日本の上に降

下しました。大国主神オオクニヌシノカミ（天孫降臨の前にこの国土を治めていた神）に国土を天孫に譲る

ことを勧めた事代主コトシロヌシの言葉にも「今天神有此借問之勅我父宜当奉避」とあるのを見れば神命に悦びしたがった様子がわかるのです。

四、天神の徳を思い常に感謝祭を行いました。

新穀が出てくると先ず神にささげて後に家族全体で感謝祭を行って食べました。天照大神も自らこの式を行われたことが古史

にも見られます。これを新嘗祭ニイナメマツリと言って今なお朝廷において行う重要な祭典です。（天皇即位の年即ち御一代に一度行われるのを

大嘗祭ダイジョウサイと言って特に重んじます。）又蚕糸カイコイト

麻アサコウソ楮が新しくとれると神衣を作って神にさ

さげます。これを神衣祭カンミソマツリと言い、同じく今まで伝わっている祭りです。これも天照大神が行われたことが古史にも見られます。この他にも古い祭典には謝恩の心から出たものが多いのです。

五、善悪の霊があって人の心を導くものと考えました。

善の霊ナオビノカミを直日神ナオと言い（直日神の上に大直日神ヤウラがいて、直日神を支配しま

す）、人の心を直くし、正くし、柔かにし、すべて良い方向に行かせるのです。悪の霊を

八十禍津日神ヤソ マガツヒノカミと言い（八十禍津日神の上に大禍津日神がいて八十禍津日神を支配します）、人の心を直くなく、正しくなく、荒ら荒らしくし、すべて悪い方に行かせます。世の中の凶事、吉事はこの二神が司っているのだとします。

六、罪は贖物アガモノにより、褌ミソギ袂ハラによって取り

除かれるとし、その罪ならびに凶事ケガレは汚穢ケガレから生ずるものとし、汚穢のうち火の汚れを最も忌み嫌いました。

罪を犯したならば贖物を出し、それから後で

褌除ハラを行います。罪の軽重によって贖物にも多い少ないがあります。罪の大きいものは手足や爪や頭髮まで取られますが、小さいもの

には褌除ハラだけで済ますこともあります。神は

この上なく清いお方です。それゆえ汚穢ケガレれを憎みます。もし神が憎む汚穢れをやめようと

しないならば禍津日神がそこにつけ込んでやりたい放題に働きます。そこから罪のわざが起こり、兇事も生まれます。火は神秘的で靈妙な力をもっていて清いものです。神祭にこ

れを用いて庭火ニワビにしたり、飲食にこれを用いて生活に役立てます。それゆえ火を重んじて、

火の汚れを嫌いました。伊弉冉尊イザナミノミコトが黄泉国ヨミに

行ったとき、黄泉国の火で炊いた食物を食べたので、その汚れによって再びこの世に帰ることが出来なかったことが古史に記されており、神祭には火に汚れが混じっていることを

恐れて、新しく火キシを鑽り出して用いるのが慣例となっています。それゆえ神代記に

燧ヒキリウスヒキリキネ曰燧杵ヒキリキネが出てきます。

七、黄泉国は極めて不潔で暗く醜い国であって人は死後だれでも全部ここに来るわけではありません。このほかに幽界があって死後の霊が住んでいると考えました。天孫降臨のと

き高皇産霊尊タカミムスビノミコトの勅令によって、幽界は

大国主神オオクニヌシノカミが司って見えない世界を治め、こ

の世は天孫瓊々杵尊ニギノミコトが司って見える世界の政

治を執り行うものと信じました。

イザナミノミコト
伊弉諾尊の言葉に黄泉国を

「イナシヨメキキタナキクニ
「伊那志許米岐穢国」（忌み嫌うべき見るに
耐えぬきたない国）と言ったことが古事記に
見え、又、その国の状況を見ようと【禁を犯
して】^{ヒト} ^ヒ火をともしたことも同書に見えま
す。現界と幽界を別々に司ることは日本書紀
の一書に高皇産靈尊の勅令に答えた大国主神
の言葉に「^{アガシラサンアラワニゴトハスメミマシラスベシ}
吾所治顕露事者皇孫当治

^{アレマサニカクリテカクリニゴトシラサン}
吾将退治幽事」とあります。

「^{アラワニゴト}
「顕霊事」とは人界の肉眼に見えることを言
い、「^{カクリニゴト}
「幽事」とは霊界の肉眼では見えない
幽玄なる事がらを言うのです。大国主の主治
する幽界は暗くて^{キタナ}穢い黄泉の国とは全く異
なる国即ち肉体の人の住むこの世の国に対す
る霊の国であります。人の目に見えない人力
の及ばない事がらは皆この霊界の神たち（神
霊と人霊）のしわざとしました。未来の賞罰
も当然大国主神が司ります。しかしながら幽
界と現界をハッキリと区別する思想は少し後
になって生じたものと思われるふしがありま
す。

八、人は肉体と靈魂とを有し、靈魂のはたら
きは肉体にまさって靈妙な力を現すものと信
じました。

日本書紀の一書に、大国主神が天下を平定し
終わったときその^{タマシイ}魂が言った言葉に

^{モシアレアラザレバ ナンジイズクニソヨククノクニヲタイラゲンヤ}
「如吾不在者、汝何能平此国乎、

^{アレアルニヨリテソノタイソウノセキヲタツルヲエタルナリ}
由吾在汝得建其大造之績矣」とある
のを見てもわかるでしょう。この

^{タマシイ}魂は人に幸いをもたらすので「^{サキミタマ}幸魂」と

いいます。又、^{クシキトク}奇霊徳をもって知識を与え人

に全ての事業を成しとげさせるので「^{クシミタマ}奇魂」
ともいいます。この二つを併せて単に

「^{ニギミタマ}和魂」と称して善と慈と和の働きを表し
ます。他にまた「^{アラミタマ}荒魂」というのがあって
悪と暴と勇の働きを表します。この二つの魂
はともに天神が人に授けるもので、一度授か
れば終生互いに離れません。それゆえ、善悪
是非が混じり合って離れません。ただその分
量だけは互いに多少入れかわることがありま
す。

神の名義

このほかにもなお言いたいことは多くありま
すが、前に挙げた数か条で日本固有宗教の大
体がわかるでしょうから、これ以上は言いま
せん。

ただ、「神の名義」と「^{ムスビノカミ}産霊神に二種ある事」
だけは説明しておかないと、人に惑いを与
えるおそれがあるので、この二か条を言い添
えましょう。

一、「^{カミ}神」は元来「^{クシビ}靈妙」という意味から出
て、そのものの貴いか、^{イヤ}賤しいかにかかわら
ず「^{クシビ}異霊」と思う所のものを「^{カミ}神」と呼んだ
のです。それゆえ神（真
の）、人、木石鳥獸、不思議な現象などをさ

して言うことがあります。^{モトオリノリナガ}本居宣長の歌に、
神といへば皆ひとしくや思ふらん
鳥なるもあり 虫なるもあり
と詠んだのがあります。上古の歴史書を開け
ば、その大半は「神」の字でうめられていま
すけれども、上代の人はその区別をよく知っ
ていたので惑うことは

ありませんでした。崇拝する神は天地の主
宰者である造化の神にかぎられていました。し
かし、後世にさまざまの迷信が出て来て、神

の名称にも種々の誤った説が生まれました。

二、今一つは産^{ムスビノカミ}霊神です。これに二種類あります。神なるものと、人なるものです。

産^{ムスビ}霊の「ムス」という語は男子^{ムスコ}、女子^{ムスメ}、また^{コケ}苔

ムス等の「ムス」と同じく物が^ナ生^イり出でること

とをいい、「ビ」は^{クシビ}「霊異」（霊的に不思議なこと）の意味で太陽を「ヒ」といい、火を「ヒ」といったたぐいは皆その意味から名付

けたものです。太古^{タイコ}の人にとって目に見えて

^{クシビ}霊異と思うものは色々あるけれども日や火は

最も^{クシビ}霊異ですからそう名付けたのです。そこ

から転じて彦^{ヒコ}（男子の尊称）、姫^{ヒメ}（女子の尊

称）、又は神の名である^{マガツヒナオビ}禍津日直毘などと言

って尊称に用いました。こうして天地の創造者の名を「ムスビ」といったのは天地を初め

その他万物・万事みなこの神の^{クシビ}霊異なる徳によって成り出でたからです。そして、その「ム

ス」という語から誤って祖先の人と混同する

ようになったのです。上^{ジョウダイ}代は言語の数も少

なく一語を多くのことに兼用したわけです。即ち「ムス」の一語には産、造、成、醸、蒸などの意味を持たせました。ですから創造の神を「ムスビ」と称え、また産出の祖をも「ムスビ」と称えました。こうしてついには両者が混同されて、神かと思えば人、人かと思えば神のようにハッキリ区別しにくくなりました。しかし、その区別しにくく思える中に自然とハッキリしてくる所もあるのです。先に述べた古事記の冒頭に出てくる三神のような場合は、「独り神に成りまして」（自然独在

の意）といい、「^{カクリミ}隠身にましましき」（身を隠しておいでになった）といえは真の天地創

造の神であることは明らかです。又その後

同じ産^{ムスビノカミ}霊神ではあっても、天照大神と共に物事を審議したり、子女を持ったりするのはこれは人であって前の神とは異なっているのは疑うべくもありません。後者は人ではあり

ますが、皇孫^{ニギノミコト}瓊々杵尊の外祖であって天照大神と共に高天原（君長の都）においでになり権威と尊栄を併有されたのです。それゆえ人々はこの方を崇め尊んで皇孫の外祖ですか

ら^{ミヤノミコト}御祖尊とも称し、^{ムスビノカミ}産巢日神ともいい、又、

^{スミマノミコト}皇孫命の^{トオツミヤ}遠皇祖などと称しました。これ

らの事を認識していれば私が前に述べた固有宗教の真実を誤解することはないでしょう。三、ここに又一つ言いたいのはこの固有宗教

と道德との関係です。「^キ樹は^ミ果によって知られる」のですから、固有宗教の結果である当時の道德のことをいうのは

不必要な話ではないと信じます。上代という未開の世でありながらも君臣父子夫婦兄弟等の間の道德には非常に大切な真理が見られます。その基本は「敬神」ということです。日本皇室の神武天皇以来二千五百五十二年の今

日に至るまで天皇位の継承が^{レンメン}連綿と行われ

て来ました。その初めは、^{スミマノニギノミコト}皇孫瓊々杵尊がこ

の国にお降りになったのは^{タカミムスビノカミ}高御産巢日神の命令によって王位は天神が定めるもので、臣民が犯すべきものではないとの信仰が上代の国民の間に受け継がれて来たことによるのです。

それゆえ^{イズモノクニノミヤツコノカンヨゴト}出雲国造神賀詞に、

「^{タカマノハラノカムロギタカミムスビノミコトノスミマノミコト}高天原能神王高御魂命能皇御孫尊に

^{アメノシタオホヤシマヲコトヨサシマツルノトキ}天下大八嶋乎事任奉之時云々」（カムロギは尊称。大八嶋は日本の古代名、

「^{コトヨサシマツル}事依奉」とは日本を治めることを委ねる

ことをいいます。)とあるのでもわかるでしょう。国民は神を敬います。それゆえ神が統治権を委ねた王に服従するのです。忠義の心はまことに深いのです。古代から^{ツタフ}伝った歌に、

ウミ^{ウミ}ゆかば ミ^ミづく^{カバネ} 屍 ヤマ^{ヤマ}ゆかば^{クサ}草むす^{カバネ} 屍

オオキミ^{オオキミ}へ^ヘにこそ^{シナ}死ぬ^{ノド}め 安閑^{シナ}には死^{シナ}じとあるのを見ても忠義の深さが知られます。

注解「天皇の御ためには水に入って死ぬとも山へ行って死ぬともいやがりません。安閑と死ぬことはしたくない。どうせ死ぬなら天皇のお側で死にたい」また、親子の情が厚かったことは天照大神がその父伊弉諾尊の下さつた御頸珠を御倉板拳神(神というのは父の賜物ゆえ尊重して称したに過ぎず、「神」といういみの神とはもちろん別のいみです。

ミクラダナ^{ミクラダナ}御倉板拳とは倉の棚ということです。)と称

し父を^{メデウヤマ}愛敬^{イツ}うように御倉の棚に^{イツ}斎きすえて日々愛重されたことによってもその孝行心の深さが拝察できます。神武帝は「^{アマツカミ}天神^{マツ}を祀り

て大孝を^{ノブ}申べし」と仰せられ、^{トミ}鳥見(大和国)

の山中に^{マツリノニハ}霊時^{アマツカミ}を立て、天神を祭られました。その祭りと孝とが並べられているのを見ても孝と敬神とが互いに離れていないことを知り得ます。万葉集の歌に、

* 「^{オオキミ}大君のみことにしあれば^{チチハハ}父母を^{イワイベ}斎瓶と置きて^{マイデ}参出きにしを」

* 注解「^{イワイベ}斎瓶は神を祭るときに用いる酒瓶です。家の中の貴い所に置いて大切にします。歌の意味は父母はわたしにとって離れがたく大切なものであるが大君の命令もまた

尊く畏れ多い。それゆえ父母を斎瓶のように大切に家の中に置いて来たが、今ごろはまあどのようにしておいでになる事だろう、ということ。」

又、* 「^{タマ}あもとじも玉にもがもや^{イタダ}頂きて

^{ミスラ}角髪の中にあへまりまくも」

* 注解「あもとじは父母のことです。母を玉にしたいものである。そうすれば頭髪の角髪の中に合わせ巻き込んでしまうのに、という意。上代は男も玉を糸に通して頭にまといました。これは母と離れるのがつらいから母を玉として頭にまとい遠方へ行くにも身に添えていたいというのです。」

こうした歌はやや後代のものですが、上代の美風がそのまま残って歌にあらわれたものです。

夫婦のことは^{イザナギイザナミ}伊弉諾伊弉冉の^{フタミコト}二尊から始ま

ります。^{アマツカミ}天神が^{ミコトノリ}二尊に^{ミコトノリ}勅して言われま

した「此の^{タダヨヘルクニ}多陀用幣流之国を^{ツクリカタメナ}修理固成せ」と。

こうして^{アメノヌボコ}天沼矛を賜って任命されたことが

ありました。^{タダヨヘルクニ}多陀用幣流之国とは未だ^{クニカタ}国形を成していない幼稚な有様をいいます。この幼稚な国を開いて完成せよと言われて夫婦二尊にこの大任を負わせられました。これによって夫婦の分が定まり世の中の事業は夫婦が助け合って成すべきことを示しました。夫婦の権利には区別がなく、人格にも尊卑の差別がありません。夫婦が愛し合うのは神のお立てになった道であると考えていました。万葉集

の歌に、「^{オオナモチ}大名持(大国主の別名)^{スクナヒコナ}少彦名の

神代より^{イヒツギ}言嗣けらし、父母を見れば^{タフ}貴とく、

^{メヨ}妻子見れば^{カナ}憐しく^{メグ}愛し云々」男が妻を愛したように女もまた夫を愛して、愛のためには非

常な勇氣を出しました。万葉集に「あが^{セコ}夫は
ものな思いそ事しあれば火にも水にも^{アレ}我あ
らなくに」ともあって、昔から夫のために身を
も命をも惜しまなかつた妻が少なからずいた
のです。又、夫はただ一人^{ヒトリ}としました。万葉
集の歌に、「荒磯^{アリソ}こえ外^{ホカ}ゆく水の^{ホカゴコロアレ}外心^{ホカ}我は
思は^{イノチ}じ命^{イノチ}しぬとも」などと詠んだものもあ
ります。ただ女だけがそうだっただけでなく、
上代は一夫一婦でした。伊弉諾^{イザナギ}伊弉冉^{イザナミ}
^{フタミコト}二尊に他夫他婦がなかつたのはもちろんの
こと瓊々杵尊^{ニギノミコト}も^{クニツカミ}国神(一地方の^{シウチョウ}酋長)の
^{ムスメ}女^{メト}を娶られたとき、姉のほうを返して、妹
の^{コノハナサクアヒメ}木花佐久夜比売を受け入れて妻とされまし
た。人皇の代となっても第六代孝安天皇の頃
までは一夫一婦であったようです。
〔注〕須佐之男命の系統においては、そうでは
ありませんでした。ことに大国主命には多
くの妻がいました。これにはわけがあるの
ですが、ここでは省略します。
先ず、以上で道徳一部は推察できるでしょう。
尚、述べたいことが沢山ありますが煩わしい
ので皆はぶくことにします。

結論

日本人はこのような宗教、このような信仰、
このような道徳をもって国を建て社会を組織
しました。もし外から妨げるものがなかつた
ならば、もし本性に適した者があって培養
を加えたのであるならば、宗教といい、国家
といい、どんなにか^{ウル}美しい姿で世に出たこ
とでしょうか。しかしながら、外から入って

来たものは、その発達の妨害とはなっても利
益にはなりませんでした。それは儒教も仏教
もみな日本固有の本性には適さない者であつ
たからです。儒教はその飾りとしての孝悌忠
信、仁義五常などにおいては元来日本に実在
するものですから衝突はしませんでした。が、
その本質においてはひどく矛盾していました。
儒教はこう言います。

「帝命不時、天命靡常」(帝命時ナラズ、天
命常ナシ)〔詩経〕。又、言います「天矜干
民民之所欲天必従え」(天八民ヲアワレム。

民ノ欲^{ホツ}スルトコロ天必ズコレヲ行ウ)〔尚書〕。

又、言います「民所惡天必誅之」(民ノニク

ムトコロ天必ズコレヲ^{チュウ}誅ス)〔尚書〕。こ

れに対してわが国では言います

「葦原千五百秋之瑞穂国八是レ吾が子孫ノ

^{キミ}王タルベキノ地ナリ。宜爾皇孫就テ治セ。行

^{アマツヒツギノサカ}ケ宝祚之隆エマサンコト

^{アメツチトモノキワマリナカルベン}当与天壤無窮者矣」【天照大神の皇孫に賜

った勅語】と。この一事を見てもその違いが
わかるでしょう。仏教では一切平等を主旨と
し、三宝(仏法僧)を最も尊しとし、万乗の
位(天皇の位)も卑しいものとします。十悪
五逆も仏徳によって消滅し、罪業の身も仏の

名を聞いて^{ムジョウボダイ}無上菩提を得ると説きます。これ

らはみな日本固有の^{フウ}風(気風・精神・風俗)

を^{ソコナ}損い、道徳を害しました。紀元千二百五

十二年(西暦五百九十二年)になって建国以

来未だかつて見たこともない^{シイギャク}弑逆(暗殺)

の事件が起こりました(熱心な仏教信者の

^{ソガノウマコ}蘇我馬子が^{スシュン}崇峻天皇を殺した)。紀元千四百

年代(西暦七百五十年頃)になると奸僧が皇

位を狙ったり、邪僧が皇宮を汚しました

(道鏡^{ドウキョウ}や玄昉^{ゲンポウ}のことですが詳しく言うに
忍びません。)仏法の結果はこのようでした。
しかし、無名無言の固有宗教はずっしりと隠
れた力をもって存在しているので儒教も仏教
もおのおのその本質を思うままに発現するこ
とが出来ず、あるいは現れ、あるいは隠れ、
ついには幾分かその質を変え、その形を変じ
て日本社会に土着化したので甚だしい禍害を
長く及ぼすことは出来ませんでした。そうは
言うものの、これがために日本固有宗教の受
けた害は少なくありません。その真理を埋没
して誤謬の神道を沢山世に出したのも主とし
て仏教儒教によってであったことは前述の神
道創始の話で明かでありましょう。日本にあ
る諸宗教の状況はこのようでしたから、互に
多少の害は受けたけれども、互いに補い助け
合ったことは少^{スカナ}なかったのです。ですから
これらの宗教の社会に対する影響も同じよう
でした。日本は宗教の荒廃地とでも言いまし
ょうか。もしこの荒廃を救うべき真宗教がな
いならば、日本数百万の靈魂をどうしたらよ
いのか！幸いにキリスト教があってその渴望
を満たそうとしています。日本固有の宗教は
笑顔いっぱい大いに歓迎するでしょう。今
日キリスト教を憎み、キリスト教を敵とする
のは、誤謬の神道、寄留の仏儒でしかありま
せん。キリスト教を伝える者の最も注意すべ
きことは、これらの宗教と日本固有宗教とを
混同視しないことです。隠れた所に潜んでい
て実力をもっている固有宗教を認識し、互い
に手を取り合って働くならば、その効果は何
倍にも増し加わって神の栄光となり、引いて
は国家の光栄ともなるでしょう。固有宗教は
名を持たないのが幸いして、その力、その権、
その所有を挙げてキリスト教に譲^{ユズ}るでしょう。
日本を全くキリスト教の支配に委ねるべく、
長い間日本を煩わして来たもろもろの宗教は
恥^{オン}じ懼^{アトカタ}れて跡形もなくなるでしょう。
願わくは国と権と栄とは唯一なる全能者に帰
して日本は窮^{キワマ}りなくその恩^{オン}寵^{チュウ}に浴せんこ

とを明治二十六年七月三伏^{サンブク}の日（極暑の意）
汗を拭いつつ記し終えた。

【訳者注「三伏」は陰陽五行説に基いた支那
曆から来たもので、夏の火に^{カノエ}庚の金が負け
る大凶の日です。著者はこの迷信を気にして
いないところが面白いと思います。】

地域別とりなし祈禱会

1. 北海道

札幌市 : キリスト公会 札幌グレイス教会 皆川尚一牧師
〒001-0032
札幌市北区北 32 条西 5-3-27
TEL 011-717-1801

2. 岩手県

水沢市 : ザ・リバイバル・東北祈りの家 高橋範明
〒023-0813 水沢市中町 26 レストラン・プレイズ
TEL 0134-62-3561 毎月第3日曜日 午前7時00分

3. 埼玉県

蕨市 : 蕨とりなし祈禱会 鷺谷世嗣兄
〒335-0003 蕨市南町 3-3-12
TEL0484-42-0967 毎月祝祭日午後2時

4. 東京都

東京都内 : 東京中央とりなし祈禱会 皆川尚一牧師
* 会場 早稲田奉仕園セミナーハウス(東京都新宿区西早稲田 2-3-1)
* 連絡先 〒228-0802 神奈川県相模原市上鶴間 6-1-17 皆川尚一牧師
TEL042-747-5703、FAX042-746-2119 毎月第4月曜日午後6時30分~9時

東京祈禱会 山浦もと姉
* 会場 キリスト教婦人矯風会館B - 1(新宿区百人町 2-23-5)
* 連絡先 〒350-0812 埼玉県川越市下小坂 612 主の園 3-25 山浦もと姉
TEL0492-34-7049,FAX0429-31-5552 毎月第1月曜日午後1時30分

5. 神奈川県

相模原市 : キリスト公会相模大野教会 皆川尚一牧師
〒228-0802 相模原市上鶴間 6-1-17
TEL 042-747-5726,747-5703 FAX 746-2119
URL <http://www.Christ-ch.or.jp/>
毎月第2木曜日午前10時15分

6. 長野県

小県郡 : 丸子町キリスト教会 松吉理枝子牧師
〒386-0404 長野県小県郡丸子町上丸子川原 1710 - 1
TEL 02684-2-5264 毎週水曜日午後7時30分

7. 静岡県

静岡市 : リビングウエイ・チャーチ リッキー・ゴードン師
〒420-0841 静岡市上足洗 4 丁目 6-16-7
TEL 054-248-4058 毎月第1日曜日午後2時

8. 京都府

京都市 : キョート・プレイヤーグループ シスター・ローズマリー・バス
 〒604-8006 京都市中京区河原町三条上ル カトリック会館 3F
 TEL 075-781-3330 毎週火曜日午後7時 英語の祈禱会

9. 兵庫県

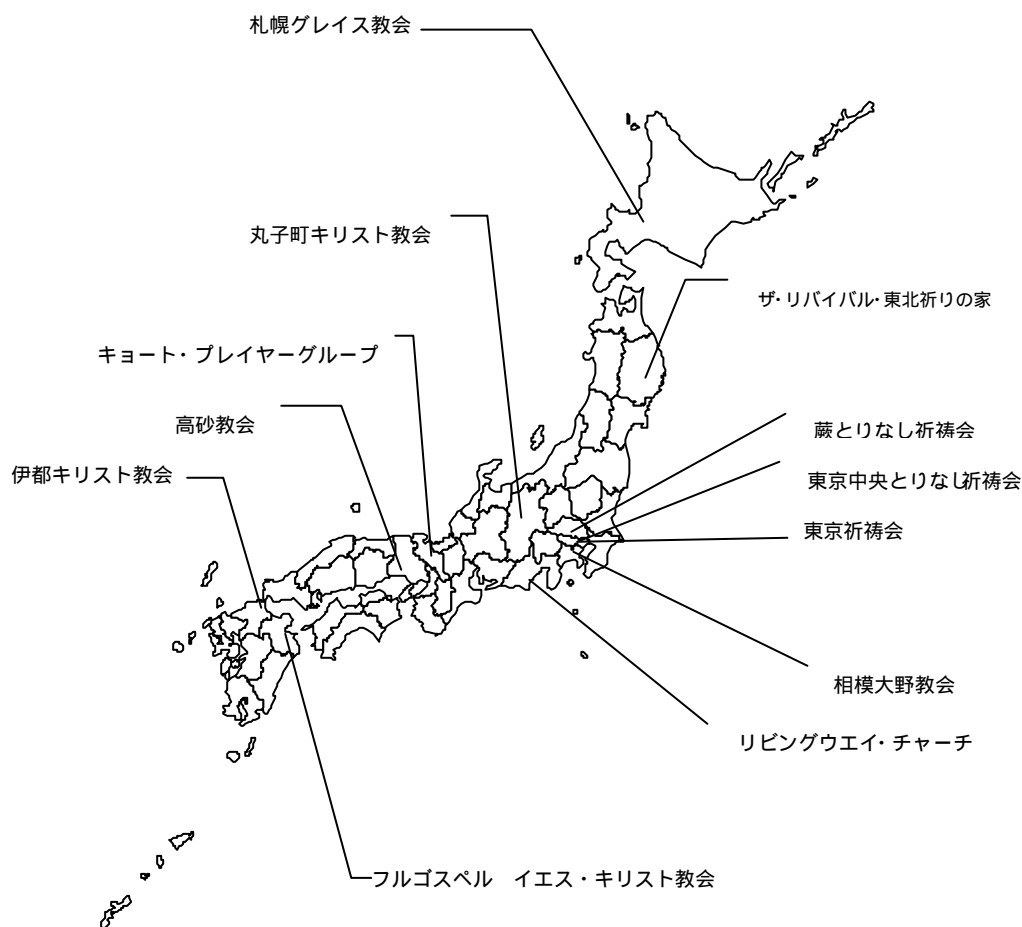
高砂市 : 日本キリスト教団 高砂教会 手束正昭牧師
 〒676-0015 高砂市荒井町紙町 1-34
 TEL 0794-42-4854 FAX 42-4878 毎月第4水曜日午後9時30分~12時

10. 福岡県

福岡市内 : 伊都キリスト教会 友納徳治牧師
 〒819-0167 福岡市西区今宿井尻 12-4-1
 TEL 092-807-9080、FAX 807-2298 毎月第3水曜日7時30分

11. 大分県

別府市 : フルゴスペル イエス・キリスト教会 永野誠治牧師
 〒874-0933 別府市野口元町10-1
 TEL & FAX 0977-26-3692
 e-mail: fg.jesus@poppy.ocn.ne.jp 毎週金曜日午後7時30分



2005年12月号祈りの焦点

(1) 継続的課題

1) 公明党が連立政権から外され、政界におけるその勢力が著しく減退するように。

又、自民党が見識を取り戻して創価学会に頼らなくなるように祈りましょう。

〔解説〕

* 9月11日の衆議院議院選挙では自民党が大勝し296議席を獲得しました。また、投票率が上がったため公明党の議席は3議席減りました。その結果、自民党は公明党に頼らなくてもやっていける可能性が強まったと言えるでしょう。公明党は平和の党という理念を押し立てて来たはずなのに、小泉政権下で、公明党は自衛隊イラク派遣、医療費値上げ、個人情報保護法など、創価学会の意向や公明党の理念と異なる政策を実行することを強いられてきました。小泉政権は憲法を改正して自衛軍をもつ方向に動き出すことは確実ですから、公明党は自民政権下に残るか、連立から外れるかの二者択一を迫られることになるでしょう。

2) カルト集団からの脱会者がキリスト教会に来て救われるように。

【解説】

統一協会のニセ・キリスト文鮮明は去る10月に日本の12都市で「宇宙平和連合創設記念大会」(Inaugural Convention 'Univeasal Peace Federation')なるものを開催しました。統一協会はかつて日本の保守系国会議員の中に「勝共連合」を作らせましたが、文鮮明は北朝鮮の金日成・金正吉と親密な関係にあり、「勝共」は偽装にすぎなかったのです。統一協会・創価学会は国際的な反キリストの闇権力の道具として用いられ、宗教カルト・政治カルトという組織を通して人々をマインド・コントロールする働きを展開してきました。アメリカ統一協会の副会長であったスティーブン・ハッサンは「マインド・コントロールの恐怖」(浅見定雄訳)という著書の中で、自分がどのようにして彼らの精神支配から解放されたかを報告し、どうしたら同じような犠牲者を救出できるかを解説しています。

3) 天皇陛下が主イエス・キリストに在って救われ、大いに祝福され、その祝福が遍く日本国民の上に及びますように。また、天皇陛下が世界の諸国民の中にあって、祝福の基として用いられ、国民が天皇陛下を先達として理解し、尊敬して、国際平和のためにつくすように祈りましょう。

【解説】

- * 天皇・皇后両陛下のご健康が守られ、皇室を内部から崩壊させようとしている創価学会勢力に対して毅然たる態度で伝統を守ることが出来るように。
- * 11月15日に目出度く挙式された黒田慶樹氏と紀宮殿下との新家庭の上に主の祝福がありますように。
- * 皇室典範有識者会議は、「女性天皇・女性宮家容認」及び「直系の第一子が後継者となる」という結論をまとめて小泉首相に答申しました。すでに、こういう考え方に対して初めて皇室サイドからの批判的発言が公表されています。それは三笠宮寛仁殿下が自ら会長をつとめる福祉団体「柏朋会」の機関紙に寄稿されたもので、その論点は二つです。2665年間世界に類を見ない我が国固有の歴史と伝統を平成の御世でいとも簡単に変更して良いのかどうか。万世一系125代の天子様の皇統が貴重な理由は、神話の時代の初代・神武天皇から連綿として一度の例外もなく、「男系」で今上陛下まで続いて来ているという厳然たる事実である。皇室典範を改正して「男系」を守るような方策を考えてみてはどうか、と具体的に三つの方法を提案されました。そして、「女系」となれば、日本國の国体を変え、天

皇は要らないという議論にまで発展することを、日本国民一人々々が真剣に考えて、自分の意見を持って発言してほしいと望んでおられます。しかし、「有識者会議」の吉川弘之座長は、三笠宮様の異議を考慮する意志のないことを表明しました。小泉首相はこの会議の答申に基いて、来年の通常国会に皇室典範改正案を提出するつもりだと言っています。

4)互いに批判し合い、反目し合ってきたキリスト教会とユダヤ人、カトリック、プロテスタント、そしてペンテコステ、および各教派・各教会の間に、悔い改めと和解が起るように。

【解説】

* 11月3日に来日したギリシャ人の預言者ヴァッスーラ・ライデンは東京・大阪・長崎の会場で、イエス・キリストが全キリスト教会に「和解と一致」を求めておいでになることを告げました。

5)キリスト教のインターネット伝道が進展するように祈りましょう。

〔解説〕

* 戸別訪問やビラ配りがかなり社会的に制限を受けてきた反面、ホームページやEメールを通じてのインターネット伝道は、ますます進展する見込みがあります。

* ただし、教会のホームページにおいては、「チャットと掲示板」のコーナーは作らない方が賢明かと思われます。

6)TV・ラジオ・新聞・雑誌関係者たちがおごりと偏った報道や人権無視の取材を止め、神を畏れたフェアな在り方をするように。これらに気付いた人が抗議や訂正の声をあげ、日本の見張り人の役を果たすように祈りましょう。

〔解説〕

* 朝日新聞は、10月28日付けの紙面で「女性天皇をどう考えるか」というテーマで三人の意見を載せました。きもの文化プロデューサーの長根秀樹氏は男系天皇を支持していましたが、他の二人は皇室解体を目指す革命的議論を展開していました。すなわち、流通経済大学法学部の横田耕一教授は「皇室典範が皇位継承を男系男子に限っているのは憲法第十四条の男女平等原則に反する憲法違反だ」と断じ、さらに「天皇制度にこだわる必要があるのか」と説いています。また、敬和学園大学特任教授の加納美紀代氏は「男子継承にこだわると、特異な女性差別国だとみなされる」と述べ、更に「女性天皇が認められたとしても、人間平等の理念に反するし、産まない自由もない。天皇制の存続を議論すべきだ」と主張しています。つまり、皇室解体を目指す記事を掲載しているのです。また、これほど露骨ではないが、読売新聞も10月28日付社説において「有識者会議の結論は尊重して良いのではないかと結論づけています。

7)日本に亡国の危機をもたらす少子化傾向がくいとめられ、神の御心にかなった増子化対策が社会全体の祝福によって実施されるように祈りましょう。

「神は彼らを祝福して言われた、《生めよ、ふえよ、地に満ちよ、地を従わせよ》」(創世記 1:28)。

【解説】

* 東京新聞11月14日号によれば、少子化対策の先進国フランスでは、合計特殊出生率が1970年以降一時1.65まで下がりましたが、現在では1.90前後まで回復しています。しかし、フランスではこれでも未だ不十分だとし、人口維持に必要とされる2.07を目指しています。一方わが日本国ではついに1.30を切ってしまいました。

* フランスでは育児休業、児童手当、が日本よりも遥かに多く、子供が多いほど税金優遇や特

典が与えられます。日本では今回新内閣に「少子化・男女参画」大臣が新設されましたので、出産・育児を支援する政策にもっと力が入るよう期待したいと思います。

8) 日本のために祈る「とりなし者」が増えるように祈りましょう。

* 北海道から沖縄まで、あらゆる市区町村にひとりずつ「とりなし者」が起こされるように。

(2) 時宜的(タイムリーな)課題

1) 小泉内閣が神を畏れ、国民の意向を無視した独裁的な政権運営を改め、日本の独立と国際平和に役立つ政治を行うように祈りましょう。

〔解説〕

郵政民営化法案は、再び衆議院に差し戻されて審議され、可決されました。この民営化政策には、350兆円の国民の貯金が外資にかすめとられる危険性ありと指摘されてきましたが、それ以上の危険が隠れていることが分かりました。それは郵政省が推進して来たギガ・ビット・ネットワーク(超高速光通信網)システムが民営化されることです。ここでは詳しい解説はできませんが、悪用されれば国民生活は黙示録的な獣の厳しい管理下におかれることとなります。この光通信網を全国の道路に敷設しているのが国土交通省であり、その長官が公明党の北側大臣であることにも、重大な意味が含まれていると思われます。組織犯罪処罰法案(別名、共謀罪処罰法案)、及び、外国人地方参政権付与法案などが廃案となるように祈りましょう。

2) 日本国民全体の中にキリストの福音が広く深く受け入れられて行くように祈りましょう。

〔解説〕

* キリスト教と「神ながらの道」(古神道)との接点についての理解が深められるように、今回は故松山高吉牧師の「神道起源」を現代語訳で連載することにしました。

* このクリスマスに沢山の人の心がイエス・キリストの愛と救いに開かれますように。

3) 国会祈祷会に聖霊の導きが与えられるように。

4) 北朝鮮における金正日の独裁体制が崩壊するように祈りましょう。

〔解説〕

* 一時は崩壊の危機にあるかに見えた金正日政権は、中国と韓国とに支えられて持ち直して来たようです。これは中国のアジア共同体戦略によるものです。このまま行けば、金正日政権が共産主義によって南北朝鮮を統一することになる恐れがあります。日本は六カ国協議や北朝鮮との二カ国協議などを通してでは拉致被害者を取り戻すことが出来ない状況にあります。

5) 家庭教育が全ての教育の基盤となるように祈りましょう。

〔解説〕

* 親が子を養い、やがて子が親を養う。年長者を尊敬するという倫理が日本社会に回復されますように。

6) 児童への虐待、女性への虐待、老人への虐待が防止されるように祈りましょう。

〔解説〕

* 虐待や殺人の行為者が悪霊に憑依されて動かされるという真相を知る必要があります。

7) ニート対策として、就職の場が大きく開かれるように祈りましょう。

【解説】

* 11月27日付け朝日新聞朝刊によれば、農林水産省はこのほどニートたちの就農を支援する政策を発表しました。それは半年間の泊り込み合宿で農作業に必要な技術や資格を身につけさせ、終了後は希望者に農業法人などの就職先を紹介するというものです。合宿は茨城県と長野県にある三ヶ所の民間の農業研修施設で行う計画で、予算一億円を計上します。

8) 中国(シナ)から日本への人口流入が制限されるように祈りましょう。

【解説】

* 東京大学教授酒井信彦氏は、シナ人による日本侵略に三段階があると論じています。第一段階は精神的侵略、第二段階は人口的侵略、第三段階は軍事的侵略です。戦後60年で精神的侵略に成功し、第二段階に入っている。日本政府は愛知万博を機に日本への団体観光ビザ発給先を中国全土に拡大しました。これによって不法滞在の道が大きく開かれました。また外国人留学生には定住権を与えようとしています。そして留学生のうち圧倒的多数を占めるのがシナ人です。政府も一般国民もこの危険性に目覚めて早く対策を立てねばならないと訴えています。(国民新聞11月25日号「国論」参照)

9) 首都圏直下型地震と房総半島南沖地震が起こらないように。また、これらの大地震によって、地下メタンガス層の破壊による連鎖暴噴大爆発が起こらないように祈りましょう。

【解説】

* 関東地方では、房総半島の銚子から東京湾、武蔵野台地にかけて盆状に広がる砂泥地層に「水溶性メタンガス」が国内で最も大量に蓄積されています。千葉・茨城・埼玉・東京・神奈川にまたがる首都圏数千万人の住民は、広大な「南関東カズ田」の上に暮らしているのです。今、南関東ガス田地帯では空前の温泉採掘ブームが進行しており、もし大地震が来たら高压状態で充満している地下のメタンガスが噴出して連鎖的な大爆発を起す可能性が大であるといわれます。切迫しているといわれる大地震と巨大ガス爆発が起こらないように祈りましょう。

(「関東天然ガス開発株式会社」のパンフレット参照)

10) 日本の農業の自給率が上向きになるように祈りましょう。

【解説】

* 世界の大国は皆、食料の自給化を目指しています。日本も農業大国をめざすべきです。

11) 日本の経済が上向くように祈りましょう。

12) 日本國憲法改正が神の御心にかなった方向に導かれるように。

13) イスラエルの平和のために祈りましょう。

* シャロン首相の強権発動によって、イスラエル人植民のガザからの撤退が完了しましたが、ハマス等過激派の武装解除が速やかに行われ、様々な種類のテロ活動が沈静化する必要があります。パレスチナ人がイスラエル人との平和共存を求めるように神のお導きを祈りましょう。

《会計報告》(2005年8月1日～9月30日)

(単位 = 円)

収 入	金 額	支 出	金 額
献 金	57,000	交 通 費	1,860
		印 刷 費	2,570
		資 料 費	10,000
		郵 送 費	23,380
		事 務 費	0
		振替手数料	480
		電 話 料	15,860
		会 場 費	5,880
		委 員 会 費	3,000
小 計	57,000	小 計	63,030
前月繰越	78,748	翌月繰越	72,718
国内活動基金 収入	0	国内活動基金 支出	0
前月繰越金	15,700	翌月繰越金	15,700
国際会議参加基金 収入	0	国際会議参加基金 支出	0
前月繰越金	35,474	翌月繰越金	35,474
合 計	186,922	合 計	186,922

【献金者芳名】(順不同)

相模大野教会(神奈川県)	2回	阿見勝洋(栃木)	1回
札幌グレイス教会(北海道)	2回	鈴木武仁(東京)	1回
高砂教会(兵庫)	1回	広瀬幸司(千葉)	1回
小石 泉(千葉)	1回	京嶋玲子(神奈川県)	1回
澤田昭夫(東京)	1回	東京中央とりなし祈祷会席上献金	1回
佐藤節代(神奈川県)	1回		

【編集後記】

*2005年12月号のニュースレターをお送りします。トップレポートは10月号に続いて松山高吉著「神道起源」(第2回)を記載しました。

*日本の伝統を崩壊させる反キリストの謀略は皇室・政界・経済界・教育界などに戦後60年にわたり浸透し、皇太子や小泉首相が愛知万博の閉会式で山羊のサイン(右手を握って親指と小指を立てるフリーメイソンのサイン)を行うほどになりました。

*しかし、私たちは確信しています「光は闇の中に輝いている。そして、闇はこれに勝たなかった」(ヨハネ福音書1:5)という御言葉の通りにサタンとその勢力が敗北することを。アーメン

(ヨハネ 皆川尚一)

《次回日本のとりなし委員会予告》
日時：2006年1月30日(月)12時
場所：キリスト公会 相模大野教会

